

令和7年度 大阪府立高槻支援学校 学校教育自己診断アンケート

集計結果とまとめ

1 アンケートの対象と集計数

- ① 対 象： 保護者・教職員を対象に実施いたしました。
- ② 項目数・内容： 保護者アンケートについて14項目にて実施しました。
教職員アンケートについて15項目にて実施しました。
- ③ 提 出 率： 保護者 55.9%（昨年度：79.4%） 教職員 93.4%（昨年度：99.3%）
アンケート回答期間は保護者が1週間、教員が2週間設定したが次年度以降は保護者の回答期間を長くすることやリマインドメール等で呼びかける機会を増やし、次年度は回答率を上げる。

2 保護者の回答分析と、前年度との比較

保護者の回答を分析した結果、肯定的な回答（「大変そう思う」「そう思う」を選択）は80%以上の項目が13※項目中9項目（うち90%以上が2項目）となり、本校の教育活動をおおむね肯定的にとらえていただいている。

※本年度の保護者アンケート14項目中、1項目は学校行事への参加率を問う設問であり、回答についても「すべて参加している」「半数以上に参加している」「参加は半数以下である」「参加したことがない（参加できなかった）」の4項目である。よって、昨年度との比較は行っていない。

【肯定的評価が90%以上の項目】

- ・ 学校は、事故・災害時等において、緊急連絡システム（さくら連絡網）等を通じて情報を迅速に発信している。（90.4%）
この項目は、昨年度と比較すると5%減少しているが、肯定的評価が90%を超えており、引き続き迅速な情報発信をしていくことが求められる。
- ・ 教員は、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義や内容等について、保護者に説明している。また、それらは、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている。（92.2%）

昨年度のアンケートは15項目であり、今年度はそのうち1項目を削除している。さらに、上記で述べた学校行事に関する設問については、昨年度と今年度で回答の選択肢が異なっているため比較できない。以上より、昨年度と今年度で比較できる項目は13項目である。

【昨年度課題としていた項目】

- ・ 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。（今年度 85.9% 昨年度 86.2%）
肯定的評価は昨年度とほぼ変わらないものの、中学部と高等部での否定的評価が17%程度ある。学校生活を楽しみにしている子どもたちが多い一方で、楽しく感じていない子どもたちが一定数いる現状を受け止め、各学部で児童生徒の困り感を受け止め、気持ちに寄り添った支援を進めていく必要がある。
- ・ 学校では、パソコンやタブレット等を活用した授業が実践されている。（今年度 64.0% 昨年度 52.5%）
今年度、「ICT」という部分を「パソコンやタブレット等」と具体的に記載することで、保護者にとって選択しやすい項目となったこと、また参観や日々の連絡帳等を通じてパソコンやタブレット等を活用している様子を伝える機会が増えていることが考えられる。

【肯定的評価が“前年度>今年度”となっている項目】

- ・ 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしてしている。(84.5% -5.0%)
この項目では全学部において肯定的評価が3～7%減少しているおり、また「わからない」の回答がどの学部も増えている。授業や HR 活動の中での具体的な取り組みについて、より保護者への周知に努めることが求められる。
- ・ 学校は、子どもの障がいについてよく理解している。(85.4% -6.1%)
この項目では、全学部において肯定的評価が約6%減少し、否定的評価が増加している(小学部：+1.9%、中学部：+9.8%、高等部：+7.3%)。より専門的な資質向上が求められていると同時に、それを授業実践や児童生徒との関わり等において保護者にも示していくことが必要であると考えられる。
- ・ 学校は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備に努めている。(82.2% -7.9%)
この項目は、「あまり思わない」「まったく思わない」という否定的評価が昨年度に比べて5.4%増加している。児童生徒数が増加して、建物の老朽化がより深刻化している中で、より児童生徒の実態に合った、安全で安心できる環境の工夫が必要だと考える。

3 保護者と教職員の回答比較

今年度、保護者と教職員で比較分析できる質問項目は10項目である。そのうち、教職員より保護者の肯定的評価が5ポイント以上高かった項目は1項目であり、以下のとおり。

【肯定的評価が“保護者>教職員”となっている項目】

- ・ 学校は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備に努めている。(保護者 82.3% 教職員 75.2%)

反対に、保護者に比べて教職員の肯定的評価が5ポイント以上高かった項目は次の7項目であり、学校運営上、留意が必要であることがわかりました。7項目のうち3項目は、保護者の回答において「わからない」が20%を超えている項目でした。

【肯定的評価が“保護者<教職員”となっている項目】

- ・ 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(保護者 70.0% 教職員 88.5%)
この項目は昨年度も今年度も保護者のアンケートにおいて「わからない」という回答が20%を超えている。(昨年度 22.9%、今年度 22.3%) また、学部別にみても、「わからない」という回答が昨年度と同じく小学部が一番高く、高等部が低くなっている。小学部、中学部でのキャリア教育の取り組みを通して、一人ひとりの支援・指導の積み重ねが、児童生徒の将来の進路につながるということを引き続き保護者に伝えていく必要がある。また、2年続けてほぼ同じ結果であることから、設問の文言についても検討が必要であると考えられる。
- ・ 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(保護者 63.2% 教職員 76.4%)
この設問に対する保護者の評価は昨年度とほぼ変わらない(昨年度の肯定的評価 64.3%) ことや、今年度保護者の「わからない」という回答が28.6%であったことを踏まえると、学校として、具体的な取り組みの保護者への周知が十分ではなかったと考える。相談しやすい体制づくりを進めるとともに、保護者への取り組みの周知も行う。
- ・ 学校は、子どもの障がいについてよく理解している。(保護者 85.5% 教職員 93.6%)—上記分析済み。
- ・ 学校は、事故・災害時等において、緊急連絡システム(さくら連絡網)等を通じて情報を迅速に発信している。(保護者 90.5% 教職員 96.2%)—上記分析済み。

- ・ 学校は、防災教育や防犯教育に積極的に取り組んでいる。(保護者 82.7% 教職員 88.5%)
この項目は、保護者の肯定的評価が昨年度とほぼ変わらない(昨年度 81.4%)ことから、引き続き取り組みを進めるとともに、保護者への周知も積極的に行っていくことが求められる。
- ・ 学校では、パソコンやタブレット等を活用した授業が実践されている。(保護者 64.1% 教職員 94.3%)—上記分析済み。
- ・ 学校は、近隣の小・中学校、高校との交流について積極的に取り組んでいる(保護者 83.6% 教職員 91.1%)
この項目に対する保護者の学部別の評価をみると、高等部では「わからない」という回答が 22%となっている(小学部 10.5%、中学部 3.8%)。高等部では作品の展示交流やクラブ交流、放課後や休日に行う交流に取り組んでいるが、今後はより、保護者への周知を進めていく。具体的には、学校HP上のブログでの発信や、校内での掲示等を活用して周知することができると思う。

4 教職員の回答分析

教員の回答では、肯定的評価が 80～90%を越えるものが多かったが、「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」という設問については肯定的評価が 66.3% (わからないが 10.2%) であった。昨年度も 66%とほぼ変わらない結果となっている。すべての教員が、傾聴・受容・共感の姿勢で接するカウンセリングマインドについて理解を深め、児童生徒が自己決定する力を高められるような支援を行えるよう、専門性の向上に努めていく必要がある。

5 まとめ

学校の教育活動について、保護者からは概ね肯定的にとらえていただいていることがわかった。一方で、肯定的回答がある程度高いものでも、昨年度に比べ否定的回答が増えていた項目や、また、保護者と教職員で肯定的評価に大きな差(5%以上)がある項目が昨年度より増えている点については、真摯に受け止めて学校全体で考え、対応していく。学校が子どもたちにとって楽しく、安心できる場となるよう、全教職員が自覚をもち、教職員同士の連携を強め、子どもたち一人ひとりを大切にした指導、支援をチームとして行えるよう、引き続き取り組みを進めていく。

6 記述による回答

- ・ 事案に関すること
- ・ 学習指導に関すること
- ・ 学校行事に関すること
- ・ 教員の専門性の向上に関すること
- ・ 教員のマナー、言動に関すること
- ・ 保護者同士の交流に関すること
- ・ 施設・設備に関すること
- ・ 通学バスに関わること